

テレクラ遊びをする女子生徒(中2)の事例

1 はじめに

この事例は、親への不満や進路についての不安を紛らすためにテレホンクラブ(以下、テレクラと略記)に電話をかけ始め、それが常習になり、ついには性交渉を持つまでになったA子に対して、両親や担任が早期の対応をしたことによって改善に向けたケースです。

2 問題の概要

○ ある日、郵便受けを何気なく見るとテレクラのチラシがあった。A子は家に誰もいなかったので遊び半分自宅から電話をかけてみた。すると電話に若い男性が出てきた。親に対する不満、好きなタレント、映画のことなど2時間近く話しを語り意気投合した。A子は、この日以降テレクラ遊びを頻繁にするようになった。電話口ではとりとめのない話を長々と続け、ついには電話相手と会う約束をし、気乗りしない性交渉を持ってしまった。

○ A子の様子がおかしいことを感じた母親は、A子のバックの中をみると、財布に多額の現金とコンドームが入っているのを発見し、心配して担任に連絡してきた。

3 A子のプロフィール

(1) 家庭環境

〈父親〉・サラリーマンで単身赴任

(40歳) 月に二度帰宅する。

〈母親〉・生活が苦しいためパートに

(38歳) 出て忙しく働いている。

〈弟〉・小学校5年生。成績優秀で(10歳) 運動も得意である。

(2) 日常の観察から

- ・ 係活動などでは自分の役目は果たすが協力的な態度はとれない。
- ・ 学習意欲がなく、授業中よく爪をかじり集中できない。
- ・ 家庭では無口で、一人で部屋にいることが多い。
- ・ 弟と比較されることを嫌う。

〔母親からの話では、幼少時よく泣き何事も不安がる傾向があった。〕

4 診断(問題行動の背景)

A子が問題行動を起こした背景には、本人・保護者・学校それぞれに問題が考えられる。

(1) 本人

A子にとって家庭は安らぎの場とはならず、逆にストレスだけを与えられる場であった。また、その悩みを打ちあける友達もなく、とくにこれといった特技や趣味もなく、ストレスを発散することはできなかった。これらのことから、幼少時から不安を抱きやすかったA子は、ストレスがたまりやすく心の限界に達していたと考えられる。そんなA子の悩みや不安を紛らわせたのがテレクラの電話であった。また、A子は優柔不断は性格から相手の男性から